

別に見ると、一人暮らしの男性は「つきあいがほとんどない」が17.4%と高く、逆に一人暮らしの女性は「親しくつきあっている」が60.9%と最も高くなっている（図1-2-6-15）。

また、病気のとことや、一人ではできない日常生活に必要な作業（電球の交換や庭の手入れなど）の手伝いについて、「頼れる人がいない」者の割合は、全体では2.4%であるが、一人暮らしの男性では20.0%にのぼる（図1-2-6-16）。

### エ 孤立死と考えられる事例が多数発生している

誰にも看取られることなく息を引き取り、その後、相当期間放置されるような「孤立死（孤独死）」の事例が報道されているが、死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表しているデータによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成22（2010）年に2,913人となっている（図1-2-6-17）。

また、（独）都市再生機構が運営管理する賃貸住宅約76万戸において、単身の居住者で死亡から相当期間経過後（1週間を超えて）に発見された件数（自殺や他殺などを除く）は、平成22（2010）年度に184件、65歳以上に限ると132件となり、20（2008）年度に比べ全体で約2割、65歳以上では約5割の増加となっている（図1-2-6-18）。

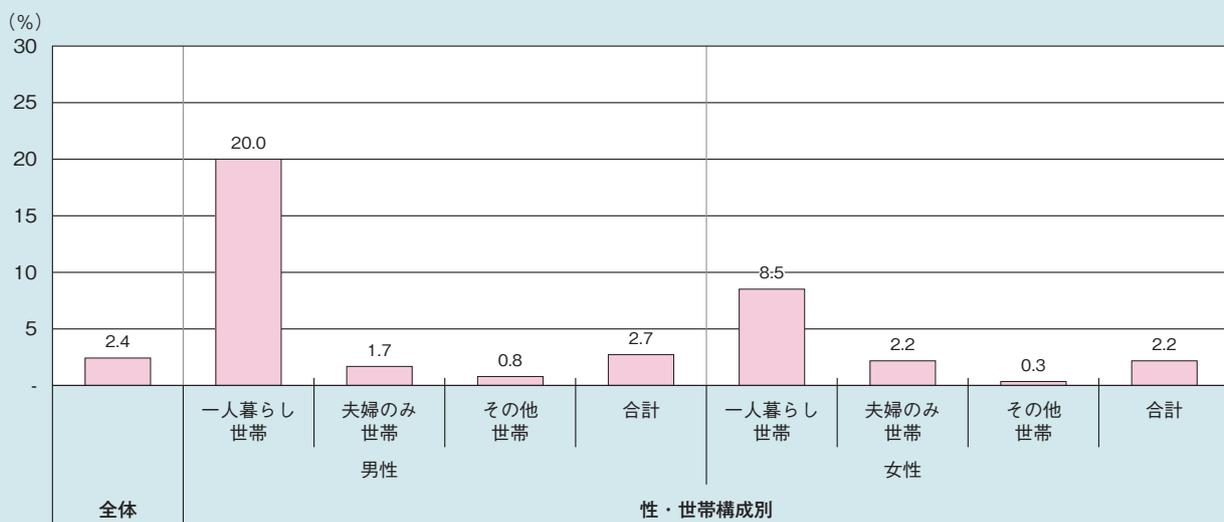
### オ 孤立死（孤独死）を身近な問題と感じる人は4割を超える

誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見されるような孤立死（孤独死）を身近な問題だと感じる（「非常に感じる」と「まあまあ感じる」の合計）人の割合は、60歳以上の高齢者の4割を超え、単身世帯では6割を超えている（図1-2-6-19）。

### (6) 高齢者の自殺

平成23（2011）年における60歳以上の自殺者数は、11,661人で19（2007）年以降、12,000

図1-2-6-16 困ったときに頼れる人がいない人の割合



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」（平成23年）  
（注）対象は、全国60歳以上の男女

人前後で推移している。年齢階層別にみると、23（2011）年は60～69歳が5,547人と前年に比べ約6%減少したが、70～79歳及び80歳以上は前年からほぼ横ばいであった（図1-2-6-20）。

(7) 東日本大震災における高齢者の被害状況

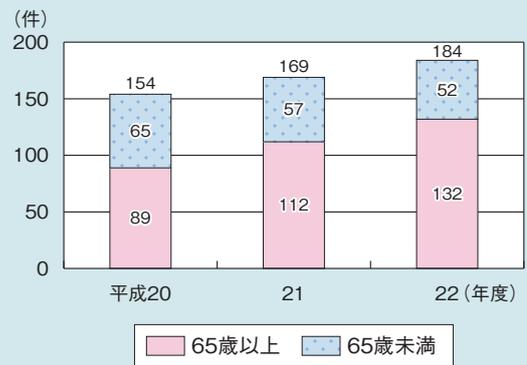
平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災における高齢者の被害状況をみると、被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は24（2012）年3月11

図1-2-6-17 東京23区内で自宅で死亡した65歳以上一人暮らしの者



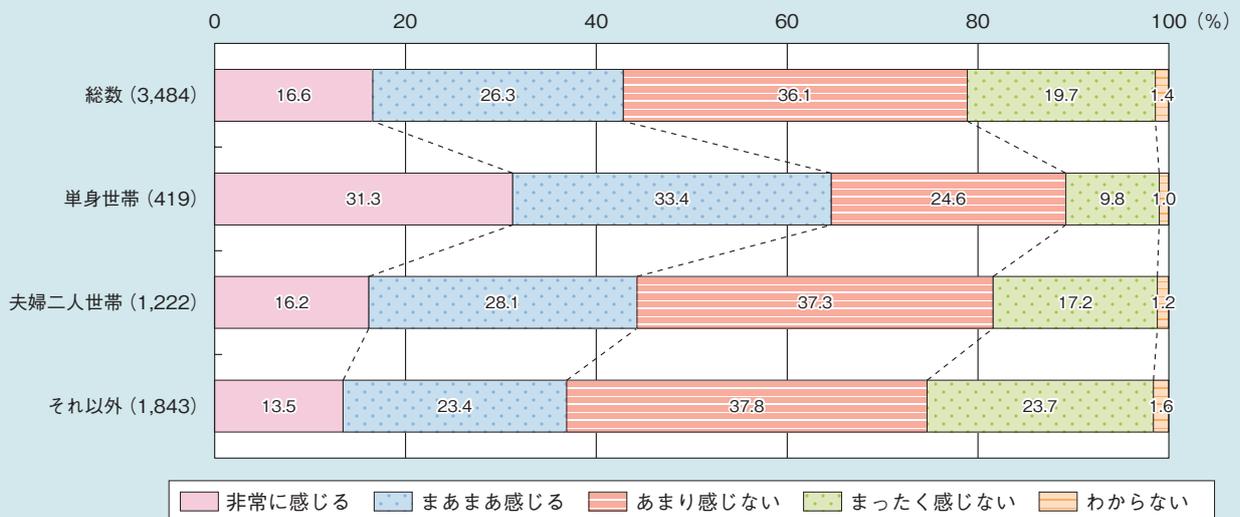
資料：東京都監察医務院「事業概要」

図1-2-6-18 単身居住者で死亡から相当期間経過後に発見された件数



※(独) 都市再生機構が運営管理する賃貸住宅で、「団地内で発生した死亡事故のうち、病死又は変死の一態様で、死亡時に単身居住している賃借人が、誰にも看取られることなく賃貸住宅内で死亡し、かつ相当期間(1週間を超えて)発見されなかった事故(ただし、家族た知人等による見守りが日常的になされていたことが明らかな場合、自殺の場合及び他殺の場合は除く。)」を集計したもの。

図1-2-6-19 孤独死\*を身近な問題と感じる者の割合



資料：内閣府「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査(平成21年)」

(注) 対象は、全国60歳以上の男女

\*本調査における「孤独死」の定義は「誰にも看取られることなく亡くなったあとに発見される死」。